

奈良市議会議員

森田一成

Morita Kazunari



奈良市議会の森田一成(自民党奈良市議会・結の会所属)は、一昨年の市議会6月定例会の選挙の結果、第85代議長に推挙され、市民に開かれた尊敬される議会の運営に努めてまいりました。今後は新たな議長の元、一議員として市政の発展に向けて尽力する所存です。コロナ禍の中における市の対応をただす質問や、地元の皆さまのご要望を受けて実現した事業など、わたしの本年度の議会活動のご報告をさせていただきます。

逼迫する保健所の業務内容 人員確保や体制作りは

8月の市議会総務委員会で森田は、今もなお全国規模で感染者数が増え続ける新型コロナウイルス感染症に関する市の対応について確認しました。市が行つてきた対応について危機管理課長からは、県内で初の感染者が確認された昨年1月28日に、市長を本部長とする対策本部を設置し、19回の対策本部会議を開催して、市としての対策についての方針事項などを協議、決定していました。その後は、4月7日の東京や大阪、兵庫、福岡など7都府県に対する緊急事態宣言を受け、健康医療部参事を事務局長とした本部事務局を立ち上げ、体制を強化。6月以降には医療提供体制の強化、支援、経済対策など全般的な対応から本部事務局機能が健康医療部内に設けられました。再び感染拡大傾向になつた7月には、モニタリング指標およびガイドラインの拡幅した歩道で都跡地区自治連合会長・森中徹中部会長と



都跡中通学路の歩道一部拡幅 子どもらの安全へさらに整備を

市立都跡中学校生徒らの通学路になっている国道308号線の三条大路三丁目の交差点から学校へと向かう道の歩道を一部拡幅いたしました。この道は、国道24号線や県道9号線(奈良大和斑鳩線)へと抜けようとする車の交通量が多くなっていますが道路の片方にしか歩道がない上

に狭く、歩行者とすれ違う場合や自転車が追い抜く際には道路にはみ出す必要があり、とても危険な状態になっています。今回は、その一部の歩道を拡幅いたしました。子どもや地域の住民の皆さん的安全を守るために引き続き整備を続けていきます。

市の独自施策の予算 その執行状況を確認

観察など、その業務は大変逼迫した状態にあります。緊急のPCR検査の対応などコロナ禍で保健師の専門性が要求され、保健師に係る業務が多くなつてることから、できる限り忙しい部署の負担を軽減するため、健康医療部内で相互に応援体制を取つて対応しました。また、保健師など専門職の会計年度任用職員の募集を行つてはいるものの、採用には至つていらない状況にあり

見直し、飲食店などにおける感染防止対策や検体採取体制の拡充などが決定されました。

保健所では、新型コロナウイルス感染症の感染経路の調査や経過

市は、引き続きコロナ対策を優先に、保健師など専門職の確保に努めるとともに、保健所職員、特に保健師の負担軽減を図るために、保健所との連携を改めて行い、保健所との連携を急ぐ必要があるとしています。これについて森田は、中核市として保健所が中心となり、全力を挙げて市民の安心・安全を確保するため、現在の保健所業務の切り分けや組織体制、また現在の業務体制の見直しや体制の強化につきましては、コントクトトレーサー(接触追跡者)に特化した部署を立ち上げ、保健所職員、保健師の負担軽減を図つていただきたい考えを市に伝えました。

症対策の補正予算について市に認めました。その執行状況は、独り親世帯への支援の「児童扶養手当受給者に対する臨時特別給付金」については100%、「県の休業要請に応じた事業者への協力金」は約25・5%、子育て世帯を対象にした「プレミアム付商品券」は約64・4%となっていました。プレミアム付商品券については、観光文教委員会で同僚議員からの指摘による懸念があつたことを伝え、市にその見解を確認。現在は購入対象を拡げ2次募集を行い、すべて販売されました。

5月臨時会で補正のあつた1億円の予備費については、新型コロナウイルス感染症対策として、学校・園に対するアルコール消毒液の購入、また医療用マスクの購入など、緊急な対応を必要とする予算に対しても充當されています。令和2年8月20日現在の予備費の残高は、6600万2000円になつています。

新型コロナウイルス、市の対応は 全力挙げ市民の安全・安心確保を

